

第 2 編 基本構想

第1章 まちづくりの基本理念

第1節 目標とする都市像と基本テーマ

江田島市総合計画の最も根本になるものが、どのような考え方で、どんなまちを目指すのかといった基本理念であり、市民が共有でき、計画期間を超えて継承されるまちの姿(都市像)やテーマを明らかにすることが大切です。

瀬戸内海と島,自然とともに生きることの大切さ

基本理念を考える上で最初に取り上げたことは、江田島市の最大の特色・資源は何であるかということです。

それは、広島湾の南に位置する多様な地形条件の島であること、そして周りに広がる瀬戸内海と穏やかな気候、美しい景観です。こうした自然が暮らしや文化をはぐくみ、歴史を培ってきました。

都市との交流, U・ターンや定住促進の大切さ

江田島市は、政令指定都市・広島市と特例市・呉市と近接しており、こうした立地性や江田島市の持つ特色・資源を生かし、都市との交流を進めることが大切です。

そのことは、江田島市を多くの人を知ること、関心を持つことにつながり、さらに、都市との交流をU・Iターンや定住促進などに発展させることが求められます。

2つの大切さから導く都市像と基本テーマ

江田島市の現状は、道路交通網の制約、過疎化と少子高齢化の進行、地域経済の停滞など厳しい状況があると同時に、立地性や自然、歴史文化、ネームバリュー、質の高い一次製品の生産など、まちづくりの資源や可能性も数多くあります。

こうした様々な状況に対応し、特色や資源を生かし、豊かさを高めながら、未来を切り拓いていかなければなりません。その取組の基本的な考え方として、「瀬戸内海と島,自然とともに生きることの大切さ」や「都市との交流, U・Iターンや定住促進の大切さ」を再認識し、目指すべき都市像と基本テーマを設定する必要があると考えます。

- 江田島市の都市像「自然との共生 都市との交流による『海生交流都市』えたじま」 -

「瀬戸内海と島,自然とともに生きることの大切さ」や「都市との交流, U・Iターンや定住促進の大切さ」は、「新市建設計画」(平成16年4月)の将来像の考え方と重なります。

このため、江田島市総合計画の都市像(将来像)は、「新市建設計画」の将来像を継承し、「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」とします。

『海生交流都市』とは、自然(海、島)とともに生き、自然にはぐくまれ形づくられた歴史や文化を大切にしながら、多彩な交流を生み出し、まちの「住みよさ、美しさ、元気」を高め、江田島市の個性と魅力を育てていくことを意図するものです。

- 都市像を支える3つの基本テーマ -

都市像を支え、その具体化を方向づける基本テーマとして、「安全・安心と快適環境の『住みよさづくり』」、「海と島と歴史文化が彩る『美しさづくり』」、「人と地域が輝く『元気づくり』」を設定します。

「安全・安心と快適環境の『住みよさづくり』」とは、保健・医療・福祉や防災・防犯、生活交通などの充実により、暮らしの基本である安全・安心を確保するとともに、下水道や公園などの生活環境の整ったまちを目指すものです。

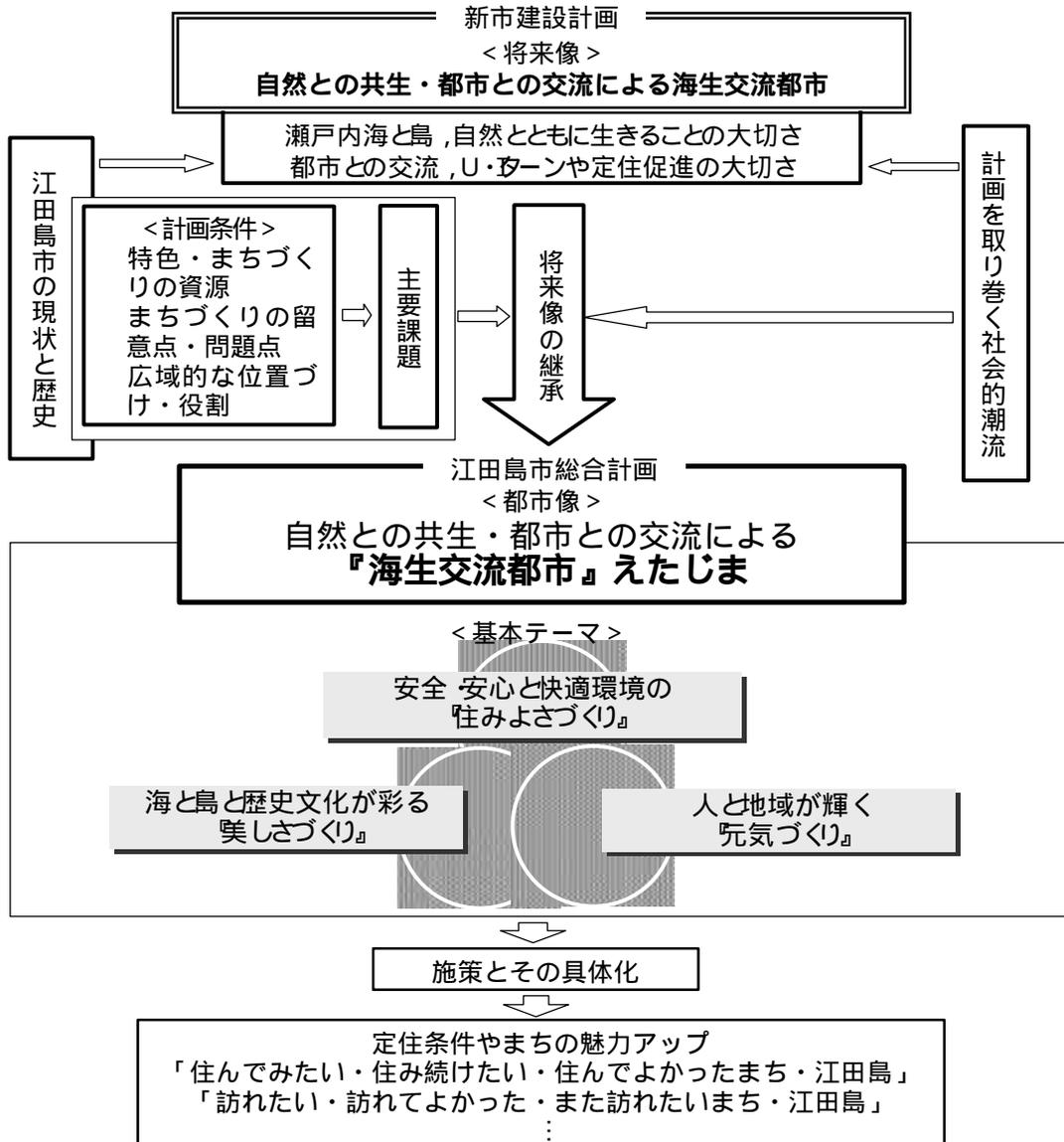
「海と島と歴史文化が彩る『美しさづくり』」とは、海と島と歴史文化、伝統を大切にする中

で、自然と人々の営みが共生する美しさと魅力を持ったまちを目指すものです。

「人と地域が輝く『元気づくり』」とは、充実した教育文化、参加と協働のまちづくり、産業の活性化などを通じて、現在を支え、次代を担う人が育ち、活力あるまちを目指すものです。

こうした方向づけを通じて都市像に近づいていくことは、江田島市が定住や二地域居住、産業・就業、観光・交流などの条件、魅力を高めることであり、「住んでみたい・住み続けたい・住んでよかったまち・江田島」、「訪れたい・訪れてよかった・また訪れたいまち・江田島」などとして、さらに育っていくものといえます。

＜江田島市の都市像(将来像)と3つの基本テーマ＞



U・Iターン(U)Iターン)

移住の行動パターンを アルファベットの形にたとえたもの。

U：地方出身の都市部の居住者が、出身地に戻り定職に就くこと。

J：地方出身の都市部の居住者が、出身地に近い都市などに移住して定職に就くこと。

I：もともと都市部に住んでいた人が、地方に移住して定職に就くこと。

ネームバリュー

名前の持つ価値。名声。

二地域居住

都市住民等が、本人や家族のニーズ等に応じて、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等の他の地域において、中長期(1～3ヶ月程度)、定期的・反復的に滞在すること等により、当該地域社会と一定の関係を持ちつつ、都市の居住に加え複数の生活拠点を持つこと。

第2節 まちづくりの展開方向

都市像を実現するためには、基本テーマを踏まえながら、施策を体系化して取り組む必要があります。

このため、体系的に施策を方向づける柱として、次のような施策の部門に対応させた6つの柱(部門別施策の方向)と計画を推進していくための3つの柱(計画推進の方向)を設定します。

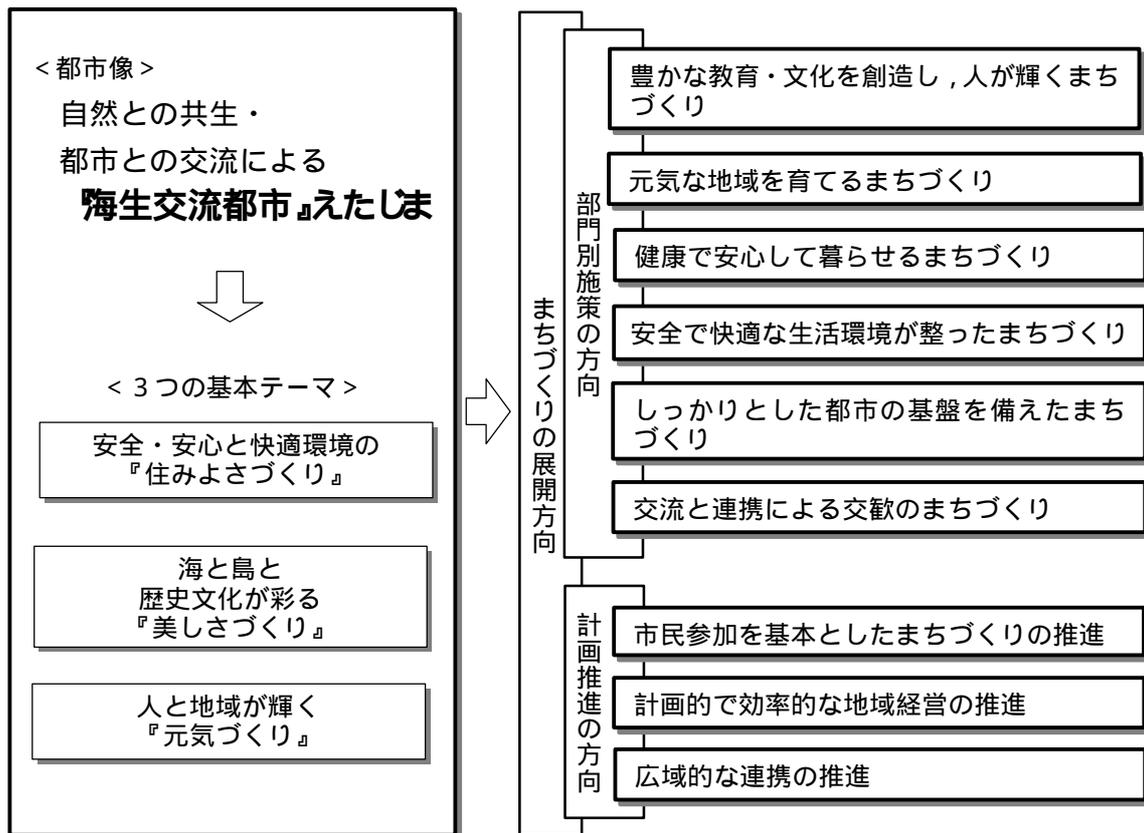
< 部門別施策の方向 >

- 豊かな教育・文化を創造し、人が輝くまちづくり(教育, 文化, スポーツ, 人権など)
- 元気な地域を育てるまちづくり(農業, 漁業, 商工業, 観光, U・Iターンなど)
- 健康で安心して暮らせるまちづくり(保健・医療・福祉)
- 安全で快適な生活環境が整ったまちづくり(循環型社会, 防災・安全, 住宅, 上下水道など)
- しっかりとした都市の基盤を備えたまちづくり(道路, 公共交通, 情報通信基盤など)
- 交流と連携による交歓のまちづくり(コミュニティ, 地域間交流, 国際交流など)

< 計画推進の方向 >

- 市民参加を基本としたまちづくりの推進
- 計画的で効率的な地域経営の推進
- 広域的な連携の推進

都市像実現のためのまちづくりの展開方向



第2章 計画の基本指標

第1節 人口フレーム

1 総人口

江田島市の人口(国勢調査)は、昭和22(1947)年の63,560人をピークに減少傾向を続け、平成17(2005)年には29,939人となっています。

人口の推移をみると、昭和25(1950)年から昭和40(1965)年にかけては、国勢調査間(5年)の人口の減少率が10%近くとなり、15年間で14,000人以上減少し、昭和40(1965)年から昭和60(1985)年にかけては、減少率が5%未満になったものの、その後は7%前後の減少率で推移し、平成17(2005)年には若干ですが、3万人を割り込んでいます。

また、老年人口比率は平成17(2005)年(国勢調査)において31.7%と、広島県平均(20.9%)より10ポイント以上高く、一方で年少人口比率は9.6%と、広島県平均(14.0%)より4ポイント近く低く、少子高齢化が進んでいます。

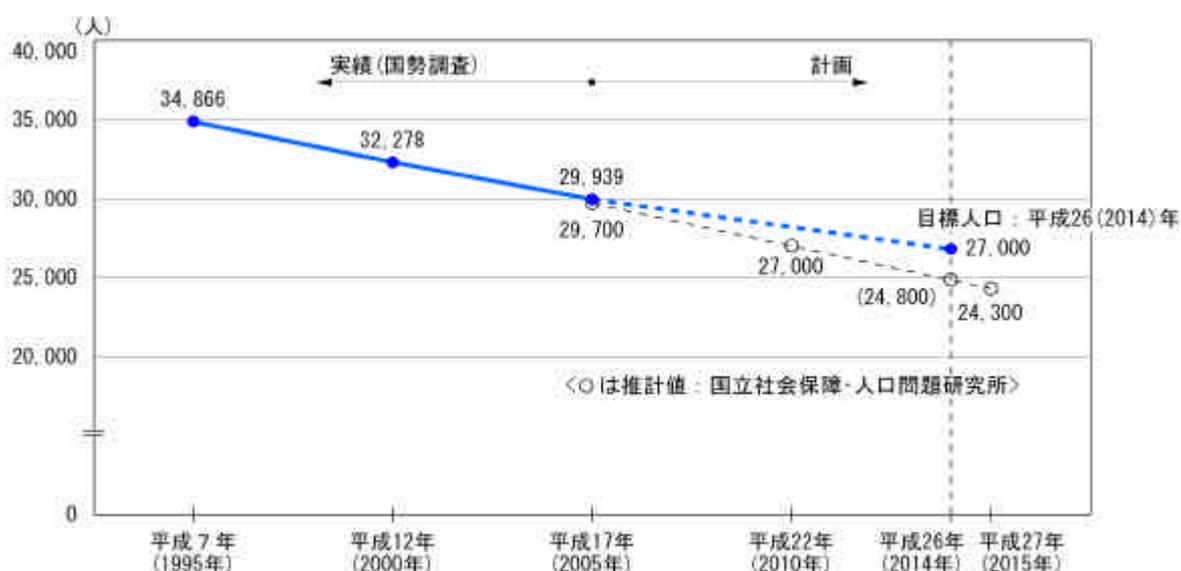
さらに、我が国全体でも、これから人口減少社会に入っていく時代となります。

こうした人口の減少傾向及び少子高齢化の進行、社会情勢を踏まえると、今後とも人口減少が続くと想定され、平成12年の国勢調査を基にしたすう勢的な人口推計によると、目標年次(平成26年)頃には25,000人を割り込むことが予測されます。

しかし、江田島市として都市像を目指した施策を展開する上からは、すう勢的な人口ではなく、現実的な観点から人口減少の速度を緩やかなものとして、目標とする人口を設定することが大切です。

このため、定住条件の向上などに取り組むことによって、人口の減少率を国勢調査間(5年)で5%程度に抑えて緩やかにすること、合併による効果を生かすことを意図し、平成26(2014)年における目標とする人口をおよそ27,000人と計画します。

江田島市の人口フレーム

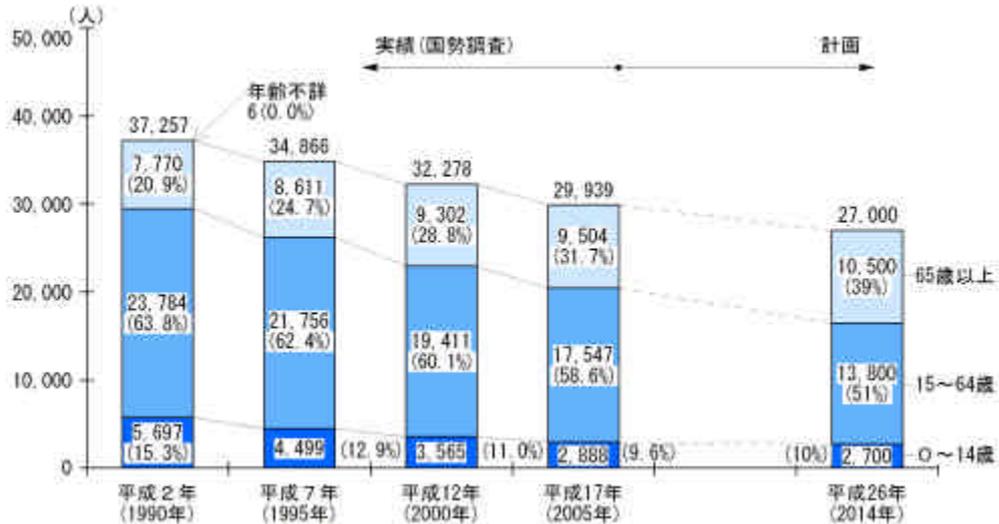


2 年齢別人口

江田島市における目標年次(平成26年)の年齢別人口構成は、その推移等を踏まえて推計し、年少人口(0～14歳)比率約10%、生産年齢人口(15～64歳)比率約51%、老年人口(65歳以上)比率約39%と計画します。

これを平成17(2005)年と比較すると、年少人口比率はほぼ同じで、生産年齢人口比率が大幅に下がり、一方で老年人口比率が大きく上昇することになり、少子高齢化がより一層進むこととなります。

江田島市の年齢別人口構成



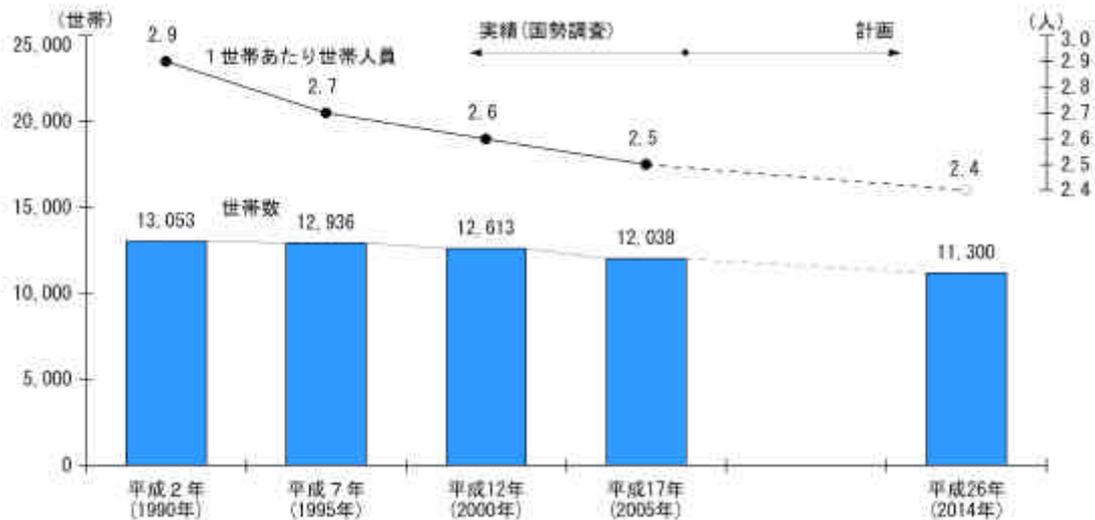
3 世帯数

江田島市の世帯数は、平成17(2005)年現在12,038世帯(国勢調査)であり、その推移をみると、人口の減少傾向よりは緩やかであるものの、減少しています。

このため、1世帯当たりの世帯人員も減少しており、平成17(2005)年の2.5人に対して、目標年次(平成26年)には2.3人近くになることが予測されます。

しかし、子育て環境の充実、雇用の場の創出、住宅・住環境の整備などを通じて、定住条件を高め、U・Iターン等を促進し、世帯人員の減少に歯止めをかけることによって、1世帯当たりの世帯人員を約2.4人とし、目標年次(平成26年)の世帯数はおよそ11,300世帯と計画します。

江田島市の世帯数、1世帯当たり世帯人員の推移



第2節 就業フレーム

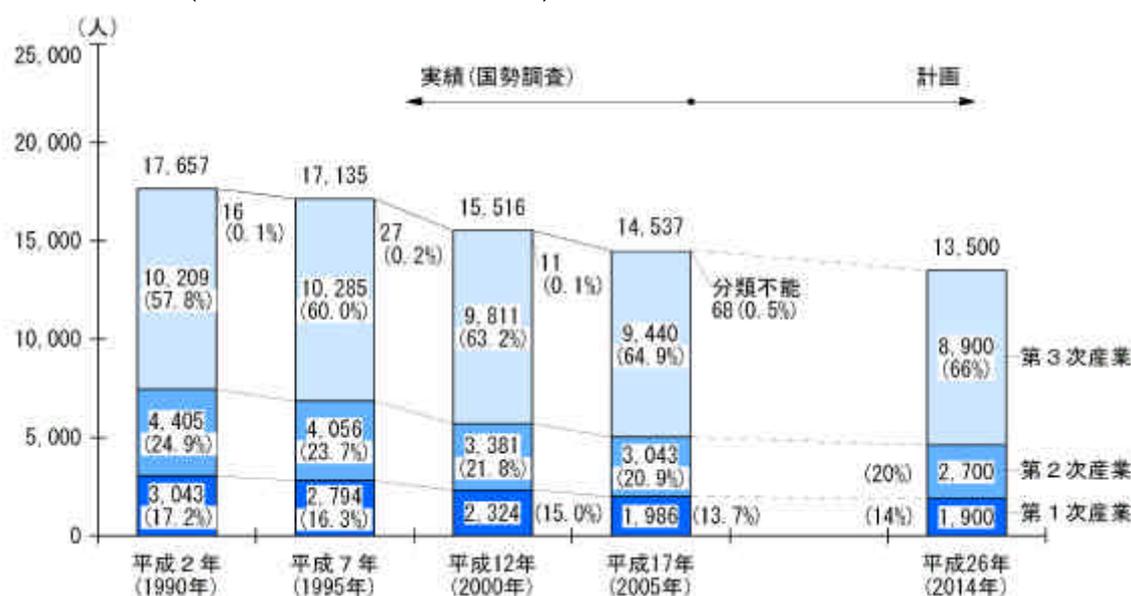
江田島市に常住する就業者数については、目標人口27,000人から推計し、目標年次(平成26年)にはおよそ13,500人になると計画します。

このうち第1次産業の就業者数は、今後とも減少することが予測されますが、農地の保全・活用、防災機能の維持、海洋資源の活用などの面から担い手の確保、U・Iターンによる就業の促進を図り、すう勢的な就業者数(約1,700人、13%)よりも多い1,900人程度の維持を目指します。

第2次産業の就業者数も減少する傾向にありますが、江田島市の地場産業などの振興に努め、2,700人程度の維持を目指します。

第3次産業については、今後ともその占める割合が高まると予測され、およそ8,900人と計画します。

就業フレーム(江田島市に常住する就業者数)



第3章 土地利用構想

江田島市総合計画における土地利用構想は、土地利用の側面から将来の地域空間(都市構造)の姿を示し、計画の基本指標(人口フレーム等)で示した数値目標と併せて、江田島市の都市像を補完する役割を担います。

こうした土地利用構想については、江田島市の都市構造の現状や動向を踏まえるとともに、長期的な視点を持ちながら、計画・構想等への的確な対応が図れるようにしておくことが大切です。

このため、次の2つの観点から、土地利用構想を設定します。

未来に引き継ぐ、しっかりとした都市構造の形成 江田島市の目指す都市構造
長期的な計画・構想等への的確な対応 - 長期的戦略構想への対応

第1節 江田島市の目指す都市構造

江田島市の土地利用の現状や機能立地、計画・構想等を踏まえ、目指していく都市構造を示します。

1 都市の魅力と活力を高める、多彩な拠点・ゾーンの整備・充実

(1) 江田島市の生活圏域的な地域区分

江田島市における生活圏域や特色を踏まえた地域整備の単位、担っていく複合的な機能を考慮し、大きくセンターゾーンと3つの基礎生活圏(地域)に区分します。

センターゾーン

人口の分布状況または密度や島内全域へのネットワーク、地理的・時間的な状況から、江南・飛渡瀬を中心とした地域をセンターゾーンとして位置づけます。

江田島地域

広島市や呉市との地理的な近接性及び公共交通基盤の整備状況から、両市への玄関口としての機能とともに、両市の都市機能と連携した居住機能を受け持つ地域として位置づけます。

能美島北部地域

優れた海浜環境に代表される自然環境と、公共交通基盤の整備状況から、広島市への玄関口としての機能とともに、広島市の都市機能と連携した居住機能及び美しい海浜を生かしたレクリエーション機能を受け持つ地域として位置づけます。

能美島南部地域

沖野島周辺地域や無人島である大黒神島をはじめ自然度の高い環境が残されていることから、自然を生かした交流機能・居住機能を受け持つ地域として、また、広島湾の入り口付近であることから、長期的には物流機能を受け持つ地域として位置づけます。

(2) 暮らしと交流を支える拠点等

市民生活と交流を支え、江田島市の均衡ある発展を図る拠点等の整備・充実に努めます。

地域拠点

3つの基礎生活圏(江田島地域、能美島北部地域、能美島南部地域)の中心地であり、公共公益機能、日常の買い物機能、交流機能等の複合的な役割を担う拠点として、江田島町中央、能美町中町、沖美町畑・岡大王、大柿町大原を位置づけ、各種機能の充実に努めます。

また、センターゾーンの江南・飛渡瀬についても、地域拠点に位置づけます。

生活中心地

地域拠点を補完する形で、交通結節点機能や情報提供、コミュニティの集会・交流機能などを担う拠点として、切串、小用、高田、高祖・三吉、鹿川、柿浦を位置づけ、それら機能の充実に努めます。

コミュニティ中心地(基礎住区)

生活中心地のほか、江田島市において最も基礎的なコミュニティ単位として、江田島町5地区(秋月、鷲部、幸ノ浦・大須、津久茂、宮ノ原)、沖美町2地区(美能、是長)、大柿町3地区(深江、小古江、大君)を位置づけ、集会・交流機能等の充実に努めます。

交通結節点・海上交通機能

生活中心地等と重複する形で、海上交通の結節点機能を担う拠点として、切串、小用、高田、中町、高祖・三吉、バス交通の結節点機能を担う拠点として大原を位置づけ、その機能の充実に努めます。

また、その他、秋月、柿浦、大君の海上交通機能の充実に努めます。

(3) 江田島市の魅力と活力を高めるゾーン

江田島市の地域資源や土地条件等を生かしながら、市としての魅力と活力を高めるゾーンの整備・充実に努めます。

海と島の交流・レクリエーションゾーン

江田島市の地域資源であり、特色でもある海と島の自然を生かしながら、自然観察や探勝の場・ルート、海水浴場、マリナー、宿泊・滞在の場など、江田島市の魅力づくりと交流人口の拡大につながる交流・レクリエーションゾーンの整備・充実に努めます。

緑と眺望の交流・レクリエーションゾーン

江田島市の地域資源であり特色でもある山岳の自然と眺望を生かしながら、登山道や展望台、森林公園など、江田島市の魅力づくりと交流人口の拡大につながる交流・レクリエーションゾーンの整備・充実に努めます。

産業中心ゾーン

工場が集積する能美島南部地域の北側は、より地域に根づく産業となるよう、自然環境との調和や循環型社会への対応を促進します。

また、工業地に近接する農業団地の生産や販売流通を支援しながら、工業と農業、観光・レクリエーションが共存するゾーンとしての形成を検討します。

国立公園ゾーン

瀬戸内海国立公園である絵の島、大奈佐美島については、環境保護を図りながら、自然との対話の場、学習の場としての活用に努めます。

海の環境と資源の保全・活用ゾーン

江田島市にとって、周囲の瀬戸内海及び海岸線は大切な地域資源であり、自然環境や漁業生産等の多様な側面から、その環境と資源の保全・活用に努めます。

2 都市構造を明確にし、機能と環境を高める交流ネットワーク軸

拠点・ゾーン等をつなぎ、江田島市全体の都市構造を明確にし、かつ、帯状に機能と環境を高めていく交流ネットワーク軸の整備・充実に取り組みます。

(1) 陸の交流ネットワーク軸

江田島市の骨格となる一般国道487号や主要地方道、一般県道の整備を促進し、道路交通ネットワークの強化・充実を図るとともに、道路及び沿道の景観づくり、適切な機能配置などに取り組みます。

また、広島市や呉市などとの広域的な道路交通ネットワークの強化に努めます。

(2) 海の交流ネットワーク軸

江田島市への重要なアクセス手段であり、市民生活の基盤でもある広島市や呉市をつなぐ海上交通の整備・充実を図るとともに、瀬戸内海地域としての広域的な海上交通や新たな航路について検討します。

第2節 長期的戦略構想への対応

江田島市にかかわる長期的な観点からの開発構想等は、広域的な構想である「広島・松山ルート構想」と江田島市の5つのゾーンを対象としたものがあります。

今後、社会経済情勢の動向、自然環境の保全・活用、農業・漁業の振興などを踏まえながら、これら開発構想等の再検討を含め、国・県等への具体化や支援の要請、動きが生じたときの市としての迅速な取組など、時代の流れや変化に的確に対応します。

1 広島・松山ルート構想（その一部である広島湾架橋構想）の推進

広島湾架橋整備は、江田島市と広島都市圏との結節を飛躍的に高める基盤整備であり、出島沖～江田島間をつなぐ構想で、広島・松山ルート構想の一部です。

2 江田島湾総合開発の推進

江田島湾総合開発は、拠点形成を目指した江田島湾奥部の開発構想です。

3 広域港湾物流機能整備の推進

広域港湾物流機能の整備は、今後の広島都市圏の国内外貿易貨物量の増加を想定して、現在の港湾ふ頭をインナーハーバー（内港）化し、外貿物流などを能美島・倉橋島に再配置する構想です。

4 新海洋都市機能整備の推進

新海洋都市機能の整備は、江田島北部及び江田島湾におけるプロジェクトで、江田島北部については、産業機能や交流機能、リゾート型住宅機能の整備、江田島湾については、島しょ部の都市機能の集約化が位置づけられています。

5 リゾート型住宅機能整備の推進

リゾート型住宅機能整備は、能美島北西の臨海部などにおいて、海への眺望を生かしたリゾート型住宅の開発を行うものです。

6 マリンスポーツ、自然体験型レクリエーション機能等の整備の推進

沖野島周辺地域や無人島である大黒神島においては、自然海岸や美しい景観を生かしたマリンスポーツや自然体験型レクリエーション機能等が位置づけられています。

1 広島・松山ルート構想（その一部である広島湾架橋構想）の推進

「21世紀の国土のグランドデザイン」（平成10年3月31日閣議決定）において示されている「島根、広島、愛媛、高知を結ぶ地域連携軸」に重なるルート。

広島湾架橋構想は「広島湾架橋基礎調査」（広島県）で検討されている。

新市建設計画（平成16年4月）で開発構想等を整理している（以下も同様）。

2 江田島湾総合開発の推進

「江田島湾総合開発構想調査」（江能広域事務組合、江田島湾総合開発構想検討委員会）などに位置づけられている。

3 広域港湾物流機能整備の推進、4 新海洋都市機能整備の推進、5 リゾート型住宅機能整備の推進、6 マリンスポーツ、自然体験型レクリエーション機能等の整備の推進

「広島湾バイエリア・ルネッサンス」（広島湾地域総合開発調査検討委員会）などに位置づけられている構想。

第4章 施策の方向

江田島市の都市像である「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」のもとに、まちづくりを計画的かつ効率的に進めるため、まちづくりの展開方向で示した部門別の6つの柱及び計画を推進していくための3つの柱のもとに、施策の方向を明らかにします。



第1節 豊かな教育・文化を創造し、人が輝くまちづくり

豊かな教育・文化を創造し、人が輝くまちづくりを目指します。

島が持つ自然、歴史、文化、先人の知恵、フロンティア精神などを貴重な教育資源として積極的に活用することによって、一人ひとりが郷土を愛し世界に羽ばたくための個性豊かな教育を創造していきます。

1 生きる力の育成と個性豊かな学校づくり

生涯にわたる人間形成の基礎をつくるため、生きる力である「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育成し、その水準を向上させます。その際、地域の教育力を活用し、郷土を愛する心や誇りもはぐくみます。

また、組織的な学校体制のもとで、質の高い教師を育成するとともに、学校・家庭・地域の連携を推進し、信頼される学校づくりを目指します。

さらに、児童・生徒の安全確保、健康管理や学校給食の充実、学校施設の整備及び学校規模の適正化など、教育環境の整備・充実に取り組みます。

加えて、保育園・幼稚園や小・中学校等との連携のもと、幼児・児童・生徒の成長段階に応じた教育が行えるよう努めます。

2 生活の基盤となる豊かな家庭づくり

家庭は教育の原点であることを踏まえ、知・徳・体・食の基盤である家庭教育を支援するため、学習機会の設定、情報の発信や相談体制等の充実に図ります。

また、青少年問題の増加する中、家庭における基本的な生活習慣や生命を尊重する心等「生きる力」の基礎的資質を育成する取組を進めます。

さらに、生活や人間形成の基盤である読書力の向上支援のため、地域や家庭における読書環境づくりを推進します。

3 学びつつ生きる教育力豊かな地域づくり

市民一人ひとりが、生きがいを感じ、生き生きと暮らせるよう、市民のさまざまな学習ニーズに対応した文化・芸術・スポーツ・レクリエーション等の生涯学習活動の場や機会を提供します。

そのために、地域の教育力の拠点となる公民館や図書館・スポーツ施設等の社会教育施設の整備や地域における多彩な知識・技能を持つ人材の活用に努めます。

さらに、家庭教育や学校教育に対しても社会教育施設の持つ機能や情報を積極的に発信し、家庭・学校・地域社会が緊密に連携した教育活動を推進します。

4 人権を尊重し、人間性豊かな人づくり

誰もが住んで良かったと思えるまちづくりを実現していくため、確かな人権認識を基盤とし、人権を尊重した人間性豊かな人づくりを目指します。

そのために、地域・学校・家庭が連携した協働の新たな取組を模索、創造しながら、多種・多様な学習機会の提供と情報発信等に努めます。

そして、多様な価値観や豊かな人権感覚を基礎としながら、今日の急激に変化・発展する社会状況に的確に対応できる主体的な生き方を求め、誰もがいきいきとしたオンリーワンを目指

します。

5 男女共同参画社会の形成

男女平等の理念に基づいた意識改革と啓発に取り組みながら，男女が共同して職業と家庭生活を両立できる条件整備，社会のあらゆる分野に男女がともに参画できる環境づくりに努めます。

オンリーワン

唯一の(ひとつ・ひとり)。かけがえのない(ひとつ・ひとり)。

第2節 元気な地域を育てるまちづくり

江田島市の地域資源や潜在力を引き出しながら，元気な地域を育て，豊かな暮らしを生み出すまちづくりを目指します。

このため，働く場の確保と産業の担い手の育成を支援するとともに，農業・漁業や商工業，観光・レクリエーションの振興，U・Iターンと交流の促進に努めます。

1 産業の担い手の確保と就労機会の拡充

江田島市における産業の担い手・後継者のネットワークづくりを図り，連携・交流を進めるとともに，こうしたネットワークを生かしながら，新たな担い手の育成などに努めます。

また，SOHO等の居住・就労環境の確保，地域の素材を生かした特産品づくりや起業の支援などに取り組み，U・Iターン等の促進及び産業や地域の担い手の確保に努めます。

さらに，関係機関と連携し，雇用の場の確保と併せて，女性や高齢者，障害者などの就労機会の拡充，能力開発，就労条件や福利厚生向上を促進します。

2 農業・漁業の振興

(1) 農業の振興

広島市や呉市に近接し，温暖な気候であるという条件を生かすとともに，農業生産基盤の整備を進め，果樹(フルーツ)・花き(フラワー)・野菜などの高品質の商品作物の生産とブランド化を促進します。

また，農産物加工施設・販売施設の整備・充実と有効活用を進め，農業の6次産業化と特産品づくりを促進します。

さらに，農業の担い手の高齢化，減少に対応し，荒廃農地対策，有害鳥獣対策，作業の共同化，農作業支援の仕組みづくり，農地の流動化の促進，担い手の育成などに努めます。

加えて，漁業や観光などとの連携を図りながら，3F(フルーツ・フラワー・フィッシュ)の島づくり，農業体験の場づくり，グリーン・ツーリズムの推進などに取り組むとともに，インターネットの活用等を通じて，情報の受発信と交流，販路の拡大を促進します。

(2) 漁業の振興

水産物の安定供給及び漁業の健全な発展のため，地元漁業者，漁業団体と連携を図り，漁場環境の保全や漁業資源の増殖，漁業経営の育成，漁業生産基盤の整備，生活環境の整備，担い手の育成などに取り組みながら，カキをはじめとした養殖業やつくり育てる栽培漁業の振興，天然ものの漁獲量の確保に努めます。

また，漁業の6次産業化や漁業文化の継承，イベントの開催，情報の受発信と販路の拡大などを支援するとともに，農業や観光などとの連携を図りながら，交流人口の増大などに取り組めます。

3 商工業の振興

(1) 工業の振興

ものづくりの大切さを再認識しながら，事業所を生産や就業の場，技術の継承，情報発信など，都市の活力や魅力を生み出す産業基盤としていくため，関係機関と連携し，中小企業の経営の安定と高度化を支援するとともに，環境や景観に配慮した施設・設備や敷地の整備，循環型社会への対応を促進します。

また、道路交通網や情報通信基盤、下水道の整備など産業の立地環境の向上に取り組みながら、地場産業等の振興や起業の促進に努めます。

(2) 商業の振興

商店街の活性化や市民の消費生活の利便性、快適性を高めるため、それぞれの地域の実情を踏まえた商業機能の維持・充実を支援します。

また、関係機関の支援と連携のもとに、中小小売業の経営の安定化、後継者の育成、交流活動の展開などを促進します。

4 観光・レクリエーションの振興

自然や歴史文化、農業、漁業などを観光・レクリエーション資源としてもとらえ、その再発見や新たな資源の創出、既存の観光・レクリエーション施設等を含めた魅力づくりを進めるとともに、個々の資源がつながり合って相乗効果を発揮するよう、コースや物語づくりなどに取り組み、江田島市の資源全体の活用を目指したフィールド・ミュージアムの構築を図ります。

また、特色ある食や特産品づくり、3F(フルーツ・フラワー・フィッシュ)の島づくり、グリーン・ツーリズムの推進などに努めます。

さらに、交通アクセスや島内でのネットワークの強化、宿泊、休憩の場の充実、情報提供・案内機能の強化、市民のホスピタリティの醸成など、受け入れ態勢の整備・充実を図ります。

こうした取組を進めるに当たっては、地域が一体となって観光・レクリエーションを振興する体制や、広島市、呉市、廿日市市(宮島)などと連携した広域的なネットワークを強化するとともに、インターネットの活用など、多様な手法を取り入れながら、効果的に情報を受発信します。

5 U・ターンと交流の促進

U・Iターンを促進するため、情報の受発信や産業振興及び就業の場の確保、住まいの確保、生活環境や教育、子育て環境の整備・充実、交通ネットワークの強化など、総合的な施策の展開を図ります。

また、江田島市の地域資源の活用を進めながら、交流人口の増大に向けた取組を地域ぐるみで展開します。その中では江田島市を訪れた人々により印象を持ってもらい、リピーターを増やすこと、さらには二地域居住や定住へとつながることを意図した取組にも努めます。

SOHO(Small Office Home Officeの略)

情報通信機器を活用して、自宅での在宅勤務や自宅付近の小規模な事務所で仕事をする職住近接の仕事の形態。

グリーン・ツーリズム

農山漁村地域において休暇を過ごすことによって、自然、文化、人々との交流を楽しむ旅のこと。

6次産業

1次産業である農林水産物の生産、1次産品の加工・製造等の2次産業、さらに、流通販売や観光農園、体験農園、農家民宿等の3次産業を組み合わせた新たな総合的産業をいう。1次+2次+3次=6次

インターネット

世界中のコンピュータと、文字、映像、音声などによって結ばれる世界規模の情報通信ネットワーク。

3F

江田島市の代表的な生産物であるフルーツ・フラワー・フィッシュの頭文字。

フィールド・ミュージアム

野外博物館。地域を博物館と見立てたまちづくり。

江田島市の自然や歴史文化、観光・レクリエーション施設、景観、産業などの価値や魅力を再発見、再評価しながら、市民や企業等の協力と参加のもと、個々の資源の活用や魅力づくりに取り組むとともに、それらをコースやテーマなどでつなぎ、観光・レクリエーションや体験学習、健康づくりなどの場として多様に活用していくことが考えられる。

ホスピタリティ

親切なもてなし。歓待。

第3節 健康で安心して暮らせるまちづくり

すべての市民が、家庭や地域で生きがいを感じながら、健康で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

このため、人口減少や少子高齢社会の実情を踏まえながら、保健・医療・福祉や子育て環境の充実、健康づくりの推進、豊かな高齢社会の形成に取り組みます。

1 保健・医療・福祉サービスの総合的な提供

複雑・多様化する市民ニーズに対応しながら、保健・医療・福祉サービスを充実させていくため、地域における連携・協力体制を強化し、保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供を図ります。

また、保健・医療・福祉の多様で高度な提供体制を確保するため、保健師等の専門的な人材の確保に努めるとともに、研修機会の拡充に取り組みます。

さらに、社会福祉協議会や社会福祉法人などとの連携を図り、市民の主体的な参加を促進しつつ、福祉サービスを支えるボランティアの確保・養成に努めます。

2 健康づくりの推進

市民の健康づくりに対する意識の高揚と日常生活における健康づくりの実践を促進するため、健康づくりや疾病予防に関する情報の提供、普及啓発活動の推進、相談・指導体制の充実、健康増進施設等の整備・充実に努めます。

また、保健・医療・福祉の連携を図りながら、健康の保持・増進から疾病の予防、早期発見、歯科保健対策、感染症対策、心の健康づくりなど、個々の状況に応じた保健サービスの提供を図ります。

さらに、市民が適切な医療サービスを受けられるよう、医療機関などとの連携を図りながら、プライマリ・ケアの定着を促進するとともに、休日・夜間の医療の充実、広域的な連携による救急医療や高度先端医療への対応などに取り組みます。

3 安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成

高齢者が、安心して暮らせるよう、関係機関と連携しながら、介護保険制度を円滑に運営し、サービス基盤の整備やサービスの質的な向上を図るとともに、保健・医療・福祉の連携を強化し、要介護高齢者等のサービス需要とその内容に応じた総合的なサービスの提供を進めます。

併せて、高齢者の要介護状態の予防、状態の維持・改善を図る観点から、地域包括支援センターを核とし、地域支援事業としての介護予防事業等を展開します。

また、高齢者が生きがいを持って、いきいきと暮らせるよう、多様な健康づくりの場と機会を確保し、生涯学習やスポーツ・レクリエーション活動などへの参加を促進します。

さらに、高齢者一人ひとりの能力や経験を生かした活動の場の創出、社会参加の促進に努め、高齢者が社会の一員として尊重され、多様な交流が生まれる地域社会づくりを進めます。

加えて、高齢者が安心して行動できる環境を生み出していくため、歩道や遊歩道などの歩行者空間の拡充、公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入を進めるとともに、民間施設や住まいのバリアフリー化なども促進します。

4 子育て環境の充実

安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長し、生きる力をはぐくんでいけるよう、福祉・保健・教育などの施策の連携を図りながら、すべての子どもが社会性を備えた大人へと自立していく環境づくりを進めます。

また、すべての子育て家庭を支援していくため、公的サービスと市民による支えあい活動を組み合わせ、地域における子育て機能の再構築に取り組み、子どもを安心して楽しく産み育てられるまちづくりを進めます。

さらに、少子化への対応を江田島市として取り組むべき重要課題の一つとして共有し、全市的な連携によって、子育て支援のネットワークづくりを進めます。

5 障害者福祉の充実

障害のある人が、障害のない人と同様に、住み慣れた地域で安心して暮らし、ともにいきいきと活動できるよう、在宅福祉サービスの充実や社会生活を送る上での障壁の解消に努めます。

また、障害のある人が自ら必要とするサービスを自由に選択し、利用できるよう、サービス基盤の整備・充実を図ります。

さらに、障害のある人が社会の一員として、生きがいを持ち自立して暮らせるよう、障害者自立支援法等を踏まえながら、社会参加や雇用の促進、教育の充実に努めるとともに、スポーツ・レクリエーション活動や生涯学習などへの参加機会の拡充を図ります。

6 地域福祉の推進

江田島市における地域福祉を推進していくための指針等を明らかにし、市民や福祉にかかわる事業者、団体等が相互に協力し、地域ぐるみで福祉に取り組む仕組みの強化やボランティアの確保・養成、福祉活動の展開など、やさしく豊かなふれあいが生まれる社会の形成を進めます。

プライマリ・ケア

地域に根ざした包括的かつ継続的な医療。保健・医療・福祉の連携を図りながら、疾患の治療だけでなく、予防活動にも重点を置く。

バリアフリー

高齢者や障害者等の行動・生活上の障壁を取り除いた環境。例えば、段差の解消、スロープや手摺りの設置、車いす用トイレ、音声案内など。

ユニバーサルデザイン

年齢や性別、身体的能力、国籍や文化など人々の様々な特性や違いを超えて、すべての人が利用しやすい、すべての人に配慮したまちづくり、ものづくり、仕組みづくりを行おうとする考え方。

第4節 安全で快適な生活環境が整ったまちづくり

江田島市や地域への愛着を持って、安心して快適に、うるおいを感じながら暮らせるまちづくりを目指します。

このため、市民の協力と参加のもとに、循環型社会の形成や自然環境の保全・再生・活用、美しい景観づくりに努めるとともに、暮らしの安全と安心の確保、快適な住まいや生活環境の整備などに取り組みます。

1 循環型社会の形成

(1) 環境にやさしい社会の実現

循環型社会の形成や環境保全を進めるため、学校、家庭、地域、職場、その他様々な場において、環境教育や環境保全への意識啓発に取り組むとともに、市民、事業者などが連携した仕組みの強化を図ります。

また、地球温暖化対策への対応なども考慮しながら、豊かな森林・緑づくりを進めるとともに、新エネルギーの導入について検討します。

さらに、関係機関と連携し、海や川の水質、大気などについての情報を適切、かつ、分かりやすく公開するとともに、市民や事業者の環境に対する意識啓発に取り組みながら、環境保全と公害防止に努めます。

(2) 廃棄物処理対策の推進

ごみ問題などに関する情報提供や意識啓発を通じて市民の理解と協力を得ながら、地域ぐるみで5Rの推進、ごみの不法投棄の防止への取組などを進めます。

事業者については、産業廃棄物の減量化やリサイクル、事業者の責任に基づいた適正処理を求めるとともに、ゼロ・エミッションを促進します。

2 自然環境の保全・再生・活用

江田島市の景観を特徴づけ、防災、水源かん養、生きものの生息などの多様な公益的機能を備えた農地及び森林や緑地、山地部、河川などについては、自然環境の保全と適切な活用に取り組むとともに、市民の参加を促進しながら、荒廃農地の修景、森林・緑づくりや環境保全・美化活動の支援に努めます。

また、豊かな瀬戸内海を守り、育てていくため、海域環境の浄化や海岸線の清掃、自然海岸などの保全と活用に取り組みます。

さらに、市民、子どもが、海や山などの自然とふれあえる場、農業・漁業の体験学習の機会の拡充、歴史的・文化的資源などと合わせた江田島フィールド・ミュージアムづくりに取り組むとともに、自然環境の保全に対する意識の啓発を図ります。

循環型社会

廃棄物等の発生抑制、循環資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。

新エネルギー

太陽光や太陽熱、風力といった再生可能なエネルギーや廃棄物発電、廃棄物熱、未利用エネルギーなどのリサイクルエネルギー。また、従来型のエネルギーの新しい利用形態。

5R

Refuse(リフューズ):拒否。不要な物は受けとらない。Reduce(リデュース):発生抑制。Reuse(リユース):再使用。Recycle(リサイクル):再資源化。Repair(リペア):修理。修理して長く使う。

ゼロ・エミッション

ある産業の製造工程から出る廃棄物を、別の産業の再生原料として利用する「廃棄物ゼロ」の生産システム。

ライフライン

生活・生命を維持するために必要な水道・電気・ガス・通信などのネットワークシステム。

3 海と島と文化が彩る景観づくり

海と島と緑の美しい景観づくり，歴史的な建造物を生かした景観づくりなどを進めるため，市民意識の啓発や行政と市民等が協働し取り組む仕組みづくり，具体的な事業・活動の展開に努めます。

また，景観面からも江田島市の顔づくり，イメージづくりを進め，広く情報発信を図ります。

4 災害に強いまちづくり

(1) 消防・救急体制の充実強化

近年の災害態様の著しい変化や不測の事態に対応しながら，市民の多様なニーズに応えていくため，災害の未然防止や火災予防，消火・救助や救急体制の整備・充実を計画的に進めます。

地域における消防防災体制の中核的存在である消防団については，その消防力を高めるため，青年層などの入団促進，装備の整備，教育訓練の充実などを通じて育成・強化を図り，市民の生命，財産を守るため，大規模災害にも対応できる消防体制のより一層の充実・強化に取り組みます。

(2) 防災・危機管理体制の整備

崖崩れなどの危険箇所の把握と計画的な整備，河川・海岸の防災対策，密集市街地等における火災や地震による危険度の軽減への取り組み，避難場所や避難経路の確保と安全化，ライフラインの防災安全化などを進めるとともに，公共施設をはじめとした建物の耐震診断とそれに基づいた整備を計画的に進め，災害に強い都市構造の形成に努めます。

また，市民の防災意識の高揚や防災訓練，自主防災組織やボランティアの育成などに取り組み，地域ぐるみの防災体制の充実を図ります。

さらに，島しょ部としての制約への対応も考慮しながら，防災情報の収集・連絡，消防活動や医療救護，被災者の生活支援，復旧などに迅速かつ円滑に対応できるよう，体制等の充実・強化を図ります。

加えて，国民保護法に基づき，国・県等と連携し，市民の生命，身体と財産を保護するための対策を講じます。

5 暮らしの安全と安心の確保

(1) 交通安全対策の推進

市民の交通安全意識や交通マナーを高めていくため，関係機関と連携しながら，年齢などに応じた交通安全教育や普及・啓発活動の充実・強化に取り組みます。

また，安全で快適な交通環境を確保するため，道路交通体系の整備，歩道や交通安全施設の整備，適切な交通規制の実施促進などに努めます。

(2) 防犯対策の推進と子ども・高齢者等の安全確保

犯罪の発生しない地域社会を形成していくため，市民の防犯意識や知識を高めながら，行政，警察，市民，地域団体等が連携し，暴力の追放や防犯活動の展開に取り組むとともに，防犯外灯や街路灯の整備など犯罪が発生しにくい環境整備を図ります。

また，子どもや高齢者等の安全・安心を確保するため，地域ぐるみで体制強化と活動展開に取り組みます。

(3) 消費生活の安定と向上

市民の消費者としての安全と利益を確保するため，関係機関と連携し，消費生活情報の提供や相談体制の充実を図るとともに，学校教育，生涯学習などを通じて消費者教育の充実に努めます。

また、循環型社会の形成などを踏まえながら、消費生活の視点からも、各家庭におけるごみの減量化や地域におけるリサイクル活動などを促進します。

さらに、食の安全確保や新鮮でおいしい食材等の消費を進める観点からも、生産者などと連携しながら、地産地消の取組を支援します。

(4) 健康被害の未然防止

ダイオキシン類や環境ホルモンなど有害化学物質やアスベスト等による健康被害を未然に防止するため、環境調査の実施や市民への的確な情報提供、効果的な対策の実施に取り組みます。

6 住宅・住環境の整備

江田島市の特色・実情を踏まえた快適な住まいづくりと合わせ、若者等の定住やU・イターンなどを促進するため、市営住宅の改善や建替えなどに取り組みるとともに、良質な住宅・宅地の供給に努めます。

また、高齢者等が住みやすい住宅・住環境の整備、地域の環境を生かした特色ある住宅の整備などに取り組みます。

さらに、二地域居住や週末居住などの受け皿となる居住の場については、近隣の生活環境や自然環境との調和を前提に、計画的な整備や既存建物の再生・活用を検討するとともに、土地や建物・住まいに関する情報の把握と情報の受発信に努めます。

7 快適な生活環境の整備

(1) 公園緑地・レクリエーションの場の整備

市民生活のうおいや地域の防災性の確保、交流・レクリエーション資源の魅力づくりなどの観点から、公園緑地の計画的な配置を図るとともに、自然緑地や海辺・水辺の環境、歴史的資源の活用、施設・設備やデザインの工夫などによって、特色と魅力を備えた公園緑地・レクリエーションの場づくりに努めます。

また、計画づくりや維持管理への市民の参画など、協働による公園緑地づくりに取り組みます。

さらに、NPOとの連携や指定管理者制度の導入などを検討します。

(2) 上下水道の整備

市民の水道や節水に対する意識・知識を高めるため、水道に関する情報提供を行います。

また、安全でおいしい水を安定して供給するため、安定した給水の確保、水道施設の整備・更新、水質管理の徹底などに取り組みるとともに、水道事業の安定経営に努めます。

快適な生活環境の確保と浸水の解消、公共水域の水質保全を図るため、計画的に公共下水道事業、特定環境保全公共下水道、農業集落排水処理施設の整備及び雨水排水処理対策を進めるとともに、公共下水道等の処理区域外については、合併処理浄化槽の設置を促進します。

また、市民・事業者の下水道に関する意識啓発や、公共下水道等の供用開始区域における水洗化の促進に取り組みます。

将来的には、上水道と下水道の一体的な整備・管理・運営によって、効率的な事業の運営を目指します。

ダイオキシン類

ごみ焼却などによって発生する有機塩素化合物の一種で、生殖機能への影響や発ガン性、奇形を引き起こす恐れなどが指摘されている。

環境ホルモン

生物の正常なホルモン作用を妨げたり、ホルモンに似た働きをしたりすることにより、生殖や健康に悪影響を及ぼす化学物質。

アスベスト

石綿。空中に飛散した石綿繊維を肺に吸入すると、約20年から40年の潜伏期間を経た後に中皮腫などの病気を引き起こす確率が高い。

NPO (Non Profit Organization の略)

民間非営利組織。継続的、自発的に社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称。

第5節 しっかりとした都市の基盤を備えたまちづくり

市民生活や交流を支え、定住の条件などを高める、しっかりとした都市の基盤を備えたまちづくりを目指します。

このため、江田島市の特色や実情を踏まえた、計画的な土地利用や拠点・ゾーンの形成を図るとともに、道路や港湾、交通網、情報通信基盤の整備に取り組みます。

1 計画的な土地利用と拠点・ゾーンの形成

(1) 計画的な土地利用の推進

都市的土地利用と自然的土地利用が調和した江田島市の均衡ある発展を図るため、土地利用の現状や動向、計画・構想等を踏まえながら、計画的な土地利用を推進します。

(2) 多彩な拠点・ゾーンの形成とネットワーク化

江田島市の住みよさや魅力、活力を高めるため、地域拠点や生活中心地、コミュニティ中心地、交通結節点と海上交通機能及び3つの基礎生活圈やセンターゾーンの機能や市街地・集落環境の整備・充実に努めます。

また、交流・レクリエーションにかかわるゾーンの計画的な整備・充実、産業にかかわるゾーンの環境整備等の促進、土地の有効活用などに取り組みとともに、新庁舎の整備について検討します。

長期的戦略構想については、今後の社会経済情勢等の動向を見据えながら、市としての適切な対応を図ります。

さらに、拠点・ゾーン等をつなぐ道路交通ネットワークの強化と併せて、沿道への適切な機能立地の促進、市民参加による道路及び沿道の環境美化や景観形成などに取り組み、交流ネットワーク軸の形成に努めます。

2 道路網の整備

江田島市の道路交通ネットワークを強化するため、津久茂架橋構想の実現に向けての取組や一般国道487号、主要地方道、一般県道の整備を促進するとともに、これらを補完する市道や林道等の整備を計画的に進めます。加えて、広島市や呉市などとの広域的な道路交通ネットワークの強化に努めます。

また、歩道や交通安全施設の整備、バリアフリー化、緑化・修景などに取り組み、安全・快適でうるおいのある道路環境づくりを進めます。

身近な生活道路については、暮らしの利便性、安全性、防災性の向上を目指した整備に努めます。

さらに、長期的視点を持って、広島・松山ルート構想及びその一部である広島湾架橋構想の推進と、それを考慮した道路網の整備を検討します。

3 港湾の整備

江田島市及び各地域の玄関口でもある港湾の整備を促進し、市民生活の利便性や快適性、安全・安心を高めます。

また、人々が集まり、出会い、交流が生まれる港湾の役割を踏まえ、交流人口の増大のための基盤、情報提供や地域の物産の販売の場などとしての活用を進めます。

さらに、県・市管理港湾をそれぞれ広域的・一体的な港湾として統合し、各港湾の担う役割

を明確にし、効率的・効果的な港づくりを推進します。

4 公共交通体系の整備

(1) 海上交通の充実・強化

市民生活を支える交通手段であり、江田島市を訪れるアクセスでもある海上交通の充実・強化を図ります。

また、瀬戸内海地域としての広域的な海上交通や新たな航路について、関係する機関・自治体の意向等を踏まえながら、必要性や効果などについて検討します。

(2) バス交通の確保・充実

海上交通とともに、市民生活を支える交通手段であるバスについては、市民ニーズなどに対応しながら、関係機関・事業者と連携して、バス路線の確保・充実、海上交通との連絡の円滑化に努めるとともに、地域の実情に応じた交通サービスについて検討します。

5 情報通信基盤の整備

高度情報化に対応し、大都市などとの情報格差を感じないで暮らしや仕事が営まれ、定住や企業立地の条件も高めていくため、高速大容量の情報通信基盤の整備を進めます。

また、情報通信基盤を活用し、電子市役所の構築を図り、市民生活の利便性、安心感を高める情報、定住や観光情報などの受発信及び情報公開を進めます。

さらに、学校教育や生涯学習などを通じて、市民や子どもが情報技術を主体的に活用できる能力・技術及び情報に関するモラルの向上を図るとともに、個人情報の保護や安全対策(セキュリティ)などに適切に対処します。

第6節 交流と連携による交歓のまちづくり

市民等の多様な交流と、都市・地域間のしっかりとした連携によって、人々が集い、ともに楽しみ、喜び合う、躍動感のあるまちづくりを目指します。

このため、市民が支え合う豊かな地域社会の形成を図るとともに、広域的な連携と交流、国際的な視野に立った都市の形成に取り組みます。

1 交流と連携による豊かな地域社会づくり

行政情報、地域情報を分かりやすく多様な手法で伝達していきながら、市民のコミュニティ活動などへの関心を高め、参加を促進するとともに、市民が主体的に参加するコミュニティ活動やイベントの開催などを支援します。

また、人口減少や少子高齢社会など地域の実情を踏まえながら、子どもや高齢者等を地域で支え合う、あたたかい地域社会づくりを進めます。

さらに、コミュニティ・リーダーの養成や自治組織の育成、コミュニティ施設等の整備・充実に取り組むとともに、地域の特色・個性を大切にしながら、江田島市としての一体感の醸成と交流促進、連携し支え合う地域社会づくりに努めます。

2 広域的な連携と交流の推進

広島市や呉市などとの役割分担と連携を図りながら、多様な手法によって地域情報の受発信を行うとともに、江田島市の自然、歴史文化、交流施設等を生かした空間・施設の魅力づくりやイベントの開催などに取り組み、交流人口の増大に努めます。

また、江田島市とかかわりのある都市などとの地域間連携や交流活動の展開について、幅広く取り組みます。

さらに、江田島市の出身者、関心のある人などとの人的ネットワークづくりに取り組み、交流の促進やまちづくりへの協力、さらにはU・Iターン、二地域居住の促進などにつなげていきます。

3 国際的な視野に立った都市の形成

交流人口の増大や活発化と合わせ、江田島市のアピールやイメージアップに努めます。

また、市民の国際感覚やホスピタリティの醸成、国際交流活動の機会の確保と参加促進に努めるとともに、外国人に配慮した案内表示などに取り組みます。

第5章 計画の推進

第1節 市民参加を基本としたまちづくりの推進

江田島市の都市像や基本テーマのもとに、各種の施策を計画的に進めていくためには、地域を支えている人々の力を再認識し、市民の目線に立ちながら、市民やNPO、企業等の理解と協力を得ることが大切です。また、江田島市にかかわりを持つ人をはじめ、広く多くの人々のアイデアや協力を得ることも期待されます。

このため、市民が訪れやすい庁舎の雰囲気づくりや職員の意識改革、広報・広聴活動の充実や情報公開、パブリックコメントへの対応、分かりやすい情報の提供と受発信などに取り組みながら、市民がまちづくりに主体的に参加できる条件づくりを進めます。

また、江田島市にかかわりを持つ人などとの人的ネットワークや協力体制の確立に向けての取組を展開します。

さらに、行政と市民等の連携、情報公開、まちづくり支援体制の強化を図りながら、それぞれの役割と責任の自覚のもとに、参加と連携による協働のまちづくりを進めます。

第2節 計画的で効率的な地域経営の推進

多様化、高度化する市民ニーズや厳しい財政状況のもとで、まちづくりを推進していくためには、行政需要に見合った財源の確保を図るとともに、限られた財源と人員を有効に活用し、最小の経費で最大の効果をあげるといった視点が大切です。同時に、社会経済情勢の変化に対応しながら、行政改革と財政健全化を進め、経営的視点を取り入れた効率的で総合的な行政運営を一層推進する必要があります。

このため、計画的な総合行政の推進に向けて総合調整機能の強化を図ります。

また、組織・機構の見直しや弾力的な組織運営、職員の資質の向上などにより、行財政の運営体制の充実・強化に取り組むとともに、行政運営における公正の確保と透明性の向上を図ります。

さらに、費用対効果の検討、政策指標の設定、計画・実行・評価・改善(PDCAサイクル)の考え方による施策の推進と管理、民間活力の導入などの方策を取り入れ、行政運営の効率化や実効性の確保に努めます。

第3節 広域的な連携の推進

地方分権への流れや生活圏の広域化、地球環境問題や循環型社会への対応などを背景に、今後とも、それぞれの地方自治体が地域の実情や特色、役割などを踏まえ、広域的な連携を図りながら、ともに地域の持続的な発展や効率的で充実した行政サービスの提供に努めていくことが求められます。

このため、広域的な課題への対応や魅力づくり、活力アップを進めるため、広島市や呉市などと連携しながら、効果的な広域的事業の実施を図ります。

また、国・県等の関係機関と連携しながら、江田島市に関係する事業の円滑な実施を促進するとともに、事務・権限移譲による地方分権時代にふさわしい自治体の構築やそのための体制づくりなど、地方分権への対応を図っていきます。

パブリックコメント

行政機関が政策の立案等を行おうとする際に、その案を公表し、市民等に広く意見や情報を提出してもらい、行政機関は提出された意見等を考慮して最終的な意思決定を行うもの。

PDCAサイクル

計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の順に実施し、最後の改善を次の計画に結びつけ、らせん状に内容や質の維持・向上などを推進する手法。